

唱歌・童謡を歌い継ぐための研究 昔話と昔話の唱歌に焦点を当てて

平澤 節子

A Succession of Japanese Children Folk Songs : In Connection with Japanese Folk Tales and Songs

Setsuko HIRASAWA

抄 録

唱歌や童謡は、我が国の音楽教育の礎であり、文学と音楽が融合した文化財ということがいえる。時代とともに生活様式が変容するように、子どもを取り巻く環境も、それに影響を受けるものである。時代の最先端の知識と技術と、普遍的かつ本質的に価値があるものとは、一見相反するもののように見えるが、まさに不易流行といえる。本研究では、唱歌・童謡を歌い継ぐ必要性について、昔話と昔話の唱歌を取りあげ、その意味を探った。昔話と昔話の唱歌の内容や認知度調査、日本の伝統や文化としてとらえた際の教育・保育のねらいや位置づけ、保育現場による実践と意識調査などを経て、考察を行った。その結果、昔話や昔話の唱歌は、日本の文化と音楽文化継承のための教材になることに加え、道德教育や多様な価値観の養成に資することが分かった。

キーワード：唱歌・童謡、昔話、昔話の唱歌、伝統や文化、道德教育

はじめに

本研究は、唱歌や童謡を後世に歌い継ぐ意義とその方法について考えるものである。唱歌や童謡は、我が国のマザーグースともいえるが、他方で、そこで用いられる歌詞やメロディが、現代の子どもの生活や文化に馴染まないと言われ、コーラスなどの愛好者を除き、保育現場などで子どもと関わる大人が、これらを知らないか、または歌った記憶や経験がないためか、現場で取り扱われる機会が減りつつある。小学校学習指導要領（音楽）には、1学年から6学年にかけて、歌唱共通教材として日本古謡を含む唱歌が示されている。これらに関しては、取扱いの留意事項として、「我が国や郷土の音楽に愛着がもてるよう、共通教材のほか、長い間親しまれてきた唱歌（中間略）など日本の歌を含めて取り上げるようにすること」¹⁾とある。日本特有の音階やメロディに愛着が持てるようになるためには、それ以前の幼少期からこれらの音楽に親しみ、文化的な土壌を養うことが肝要である。

なぜ、唱歌や童謡を歌い継がなくてはならないのか。本稿では、児童文化財として親しまれることが多い昔話を取りあげ、昔話に由来する唱歌（以後、昔話の唱歌）の内容や現代に残る

教材を調べ、養成校にて学ぶ学生への認知度調査を行いその実際を把握し、教育・保育の5領域や改定された小学校学習指導要領にみられる伝統や文化、道德教育からの必要性や、保育現場における昔話と昔話の唱歌を題材とした保育実践を通して、その意味を考えていくこととする。

1. 昔話と昔話の唱歌について

『桃太郎』や『浦島太郎』などに代表される日本の昔話（以後、昔話）は、私たち日本人が、幼少期より口承または紙芝居や絵本などを用いて、周囲の大人たちより語り継がれてきた文化遺産といえる。柳田（1976）によると、昔話は「昔々ある処に」などの句をもって始まり、話の区切りごとに、トサ・ソウナ・トイウなどの語を付して、それが何者かからの又聴きであることを示し、「めでたしめでたし」など、話の終わりを示す句によって結ばれるような形式をもつ²⁾という。大辞泉（小学館）によると、昔話は「民俗学で、口承文芸のひとつ。子どもに語って聞かせるたぐいの、空想的な世界を内容とする話。ふつう、「むかしむかし、ある所に」などの句で始まる」³⁾とされ、同書「日本五大昔話」の項目には「室町末期から江戸初期にかけて成立した代表的な五つの昔話。桃太郎、かちかち山、猿蟹合戦、舌切り雀、花咲爺」⁴⁾とある。これらの昔話には、例えば「お爺さんは山へ芝刈りに、お婆さんは川へ洗濯に」とあるように、日本人の生活や風習などが描かれ、狸や兎または猿と蟹などの動物や、正直爺さんと意地悪爺さんなどとの行いを対比して、物事の善悪を教え諭す内容が含まれている。昔話の道德性について、森光、関（2015）らによると、昔話は主に、訓育的説話、勧善懲悪を主旨とした物語、超時空間的物語の3つのタイプに分けられる、⁵⁾という。

これらの昔話は、紙芝居や絵本を用いず、物語を聞かせる素話として幼少の子どもに伝えられたり、保育現場では、紙芝居や絵本を用いて園児らに読み聞かせられたりしている。子どもにとって愛着のある動物や、鬼や妖怪などの架空の存在が題材とあって、昔話や昔話の唱歌は保育教材として児童文化財としても欠かすことのできないものになっている。

また、これらの昔話に由来して、物語を歌詞にして作曲された唱歌がある。これらは、おもに1900年（明治33年）に刊行された「幼年唱歌」や1901年に発行された「幼稚園唱歌」、1911年（明治44年）に文部省が編纂した「尋常小学校唱歌」に収められている唱歌である。前掲の五大昔話に関するものでは、「幼年唱歌」に『桃太郎』（田辺友三郎作詞、納所弁次郎作曲）、『金太郎』（石原和三郎作詞、田村虎蔵作曲）、『浦島太郎』（石原和三郎作詞、田村虎蔵作曲）、『さるかに』（石原和三郎作詞、納所弁次郎作曲）、『花咲爺』（石原和三郎作詞、田村虎蔵作曲）が掲載され、「幼稚園唱歌」には『桃太郎』（滝廉太郎作詞・作曲）、『かちかち山』（東くめ作詞、滝廉太郎作曲）、『進め進め』（後に、舌切り雀の歌として、『雀のお宿』とされる。⁶⁾加藤巖夫作詞、フランス民謡）、「尋常小学唱歌」には『桃太郎』（作詞者不詳、岡野貞一作曲）、『浦島太郎』（作詞、作曲者不詳）、『一寸法師』（巖谷小波作詞、田村虎蔵作曲）などが掲載されている。これを見ると、『桃太郎』や『浦島太郎』など同名の歌が、様々な作詞、作曲家によって作られていることから、その題材の人気ぶりがうかがえるのである。

しかしながら現在では、これらの昔話の唱歌は、昔話の絵本などとは異なり、身近な教材としてCDや楽譜などで入手できるものが限られてくる。その中、2007年に日本クラウン株式会社から発売された「日本のむかしばなし歌集」（CD）には、18曲の昔話の唱歌が納められてお

り（表1）、これらを歌い継ぐことができる有用な教材とみることができる。同様なものに、2015年同社より「特選 日本むかしばなし歌集」（CD）が発売され、2007年の昔話唱歌に『桃太郎』と『浦島太郎』の朗読が加わった内容となっている。また、2017年にはキングレコード株式会社から「歌いつぎたい日本の昔ばなし歌」（CD）が発売され、前述の18曲のほかに『おむすびころりん すっとんとん』や『毬と殿様』、テレビアニメのテーマソングや日本五大昔話と『十二支のお話』の朗読が加わった内容となっている。

表1 『日本のむかしばなし歌集』（日本クラウン株式会社）にみる昔話の唱歌

曲名	作詞／作曲	曲名	作詞／作曲
浦島太郎	石原和三郎／田村虎蔵	文福茶釜	山北しげり／中山晋平
金太郎	石原和三郎／田村虎蔵	さるかに	石原和三郎／納所弁次郎
うさぎとかめ	石原和三郎／納所弁次郎	七夕さま	権藤はなよ（補）林柳波 ／下総皖一
羽衣	林柳波／橋本国彦	舌切雀	石原和三郎／田村虎蔵
大黒様	石原和三郎／田村虎蔵	一寸法師	巖谷小波／田村虎蔵
花咲爺	石原和三郎／田村虎蔵	桃太郎	文部省唱歌／岡野貞一
大江山	石原和三郎／田村虎蔵	かちかち山	東くめ／滝廉太郎
牛若丸	石原和三郎／田村虎蔵	証城寺の狸囃子	野口雨情／中山晋平

そのほか、昔話の唱歌に関する絵本では、2008年に成美堂出版から「童謡つき 読み聞かせ絵本」が発行され、表1にみられる日本の昔話や、世界の童話が収められている。このように、現代に残る昔話の唱歌を見ると、「幼年唱歌」からのものが多いようだ。納所弁次郎と田村虎蔵によって編纂された「幼年唱歌」は、口語体で書かれており、明治初期の唱歌にみられる文語体、金田一（1995）によると「堅苦しい歌詞」⁷⁾による唱歌に、批判的であったともいわれている。⁸⁾ その甲斐もあり「幼年唱歌」で編纂された唱歌の方が親しみがもたれ、今日までおよそ120年もの長きにわたり、歌い継がれてきた、ということがいえるのである。

2. 昔話と昔話の唱歌の認知度調査

（1）調査方法

調査は、筆者が勤務する保育学科の学生（「保育内容の理解と方法（音楽）」履修者と「歌とピアノの技術」履修者）を対象に、2020年7月に実施した。調査方法は無記名による質問紙である。調査紙には調査の主旨と学術的な目的で行われることを明記し、口頭でも同様の説明を行った後、履修者202名のうち、実習中などによる欠席者を除き、調査当日の出席者のうち、同意を得られた150名（回答率98%）から回答を得た。

（2）調査結果

調査は、『桃太郎』、『金太郎』、『浦島太郎』、『花咲爺』、『一寸法師』、『うさぎとかめ』の6つの昔話を対象とした。日本五大昔話と少し異なるが、三太郎として親しまれる『桃太郎』、『金太郎』、『浦島太郎』に、物語の明快さと、出版される絵本の多さから『花咲爺』と『一寸

法師』、そして『うさぎとかめ』を加えた6話とした。『うさぎとかめ』は、イソップ童話であるが、それに由来する昔話の唱歌があることから、項目に加えた。調査内容は、昔話と昔話の唱歌それぞれの認知度と、これらを知るきっかけ（いつ、誰から伝えられたか）について尋ね、図1に示した。

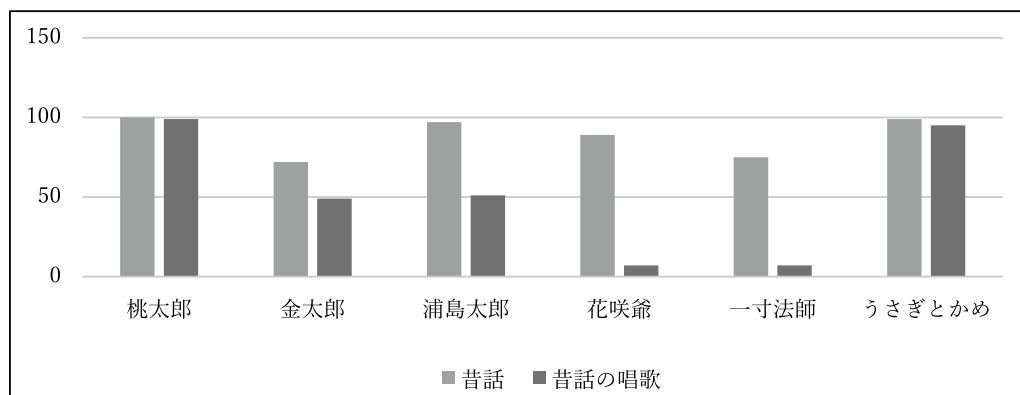


図1 昔話と昔話の唱歌の認知度

認知度について、昔話を「知っている」と答えた回答が、『桃太郎』100%、『金太郎』72%、『浦島太郎』97%、『花咲爺』89%、『一寸法師』75%、『うさぎとかめ』99%と、いずれも高い水準で認知されていた。昔話の唱歌の調査方法については、筆者が歌の1番全てを歌い終えた後に「知っている／聴いたことがある」または「知らない」のいずれかで回答を得た。その結果、「知っている／聴いたことがある」が、『桃太郎』99%、『金太郎』49%、『浦島太郎』51%、『花咲爺』7%、『一寸法師』7%、『うさぎとかめ』95%という内容であった。

これらの昔話や昔話の唱歌を知るきっかけでは、何歳頃これらに触れたかを問い、その結果を図2、図3に示した。昔話は1歳～2歳の乳児期が全体の0.6%、3歳～5歳の幼児期が83%、6歳以上の児童期が16%、それ以上が0.4%という結果になり、幼稚園、保育園に在園している幼児期に、全体の8割を超える学生が、これらに触れていたことが分かった。一方、

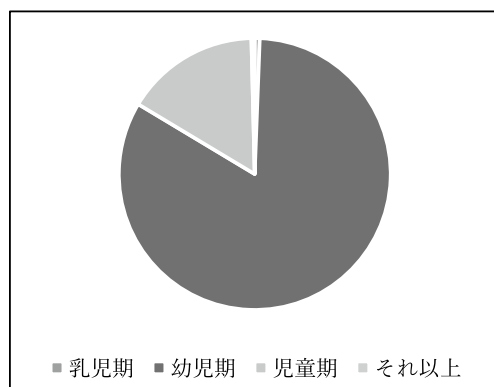


図2 昔話に触れた時期

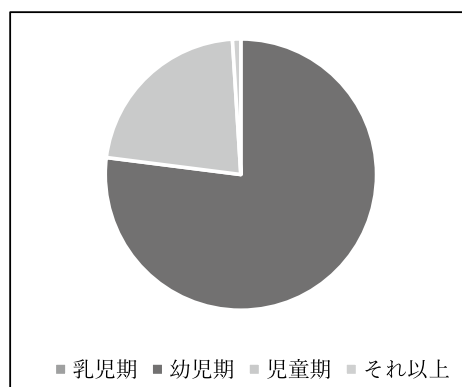


図3 昔話の唱歌に触れた時期

昔話の唱歌は、3歳から5歳の幼児期が全体の77%、6歳以上の児童期が22%、それ以上が1%と、昔話に比べて昔話の唱歌に触れた年齢の方が高いことが分かった。

次に、誰から伝えられたかについて、図4、図5にその結果を示した。昔話については、両親のいずれかが全体の40%、先生が51%、祖父母が8%、姉や友だちが0.7%と、予想を超えて先生からとする回答が全体の半数を超えた。一方、昔話の唱歌については、両親のいずれか

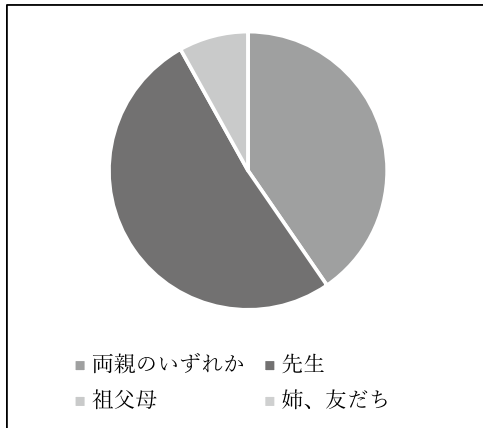


図4 昔話は誰から伝えられたか

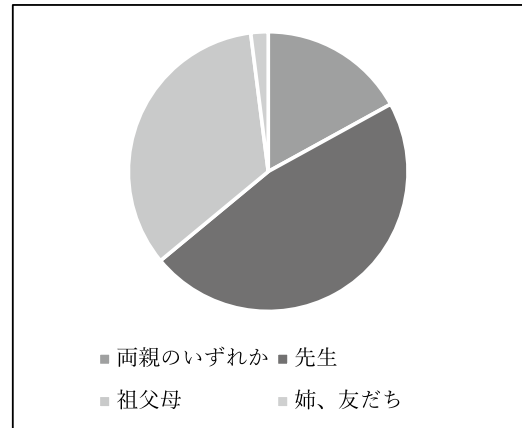


図5 昔話の唱歌は誰から伝えられたか

が全体の17%、先生が47%、祖父母が34%、姉や友だちが2%であった。昔話では、祖父母から伝えられたとする回答が8%と、全体の1割に満たないのに対して、昔話の唱歌では、3割を超える人数が祖父母から伝えられていたことが分かり、両親のいずれかから伝えられたとする回答を上回る、興味深い結果が得られた。また、全体の半数程は、先生（ほとんどは保育者）から昔話や昔話の唱歌を伝えられていたことが分かり、保育者や小学校教諭の継承者としての役割に改めて気づかされた。

(3) 考察

昔話と昔話の唱歌の認知度調査では、『桃太郎』、『金太郎』、『浦島太郎』、『花咲爺』、『一寸法師』、『うさぎとかめ』の昔話とそれに由来する昔話の唱歌の認知度、そして、それぞれ何歳頃、誰によって伝えられたかについて回答を得た。昔話の認知度については、「知っている」とする回答100%の『桃太郎』を筆頭に、『うさぎとかめ』と『浦島太郎』は9割後半、『花咲爺』と続き、『一寸法師』と『金太郎』は7割程度の認知度であった。昔話の唱歌については、「知っている／聞いたことがある」とする回答は、『桃太郎』と『うさぎとかめ』は9割後半、『浦島太郎』と『金太郎』は5割程度、『花咲爺』と『一寸法師』については1割に満たない認知度であった。『桃太郎』と『うさぎとかめ』は、いずれも良く知られていることが分かったが、『花咲爺』と『一寸法師』は、昔話の認知度に比べると昔話の唱歌の認知度は非常に低い結果となった。これらについて、「誰から伝えられたか」の詳細を見ると、先生、祖父母、友だち、母の順となり、他の昔話の唱歌に比べて、母から伝えられたとする回答が、最も低いことが分かった。図5のとおり、昔話の唱歌は、両親のいずれかよりも、祖父母から伝えられたとする回答の方が多い。これは、祖父母世代と両親世代において、世代間による認知度の差が背景にあると考えられる。祖父母から伝えられたとする回答は34%なのに対し、1世代若い両親のいずれかからとする回

答は、その半数の17%という結果からも、昔話の唱歌離れが明らかであった。調査ではその他に、昔話の唱歌を聴いた感想について自由記述による回答を得た。その内容を表2に示す。

表2 昔話の唱歌を聴いて感じたこと

-
- ・懐かしい感じがした。(33)
 - ・歌とストーリーが同時に入ってくるため、物語を聞いているように感じた。(32)
 - ・知らない歌が多かった。(29)
 - ・歌いやすいメロディで、覚えやすいと思った。(8)
 - ・親しみやすく、心地よかった。(8)
 - ・どの歌も、同じようなリズムやメロディだった。(6)
 - ・今の歌とは異なる雰囲気、日本独特の感じがした。(5)
 - ・聴いていて、ワクワクした。(5)
 - ・人に良いことをすると、良いことがある、ということが分かった。(2)
 - ・昔の言葉が歌に出てくるので、子どもに意味を教えるのが、大変だと思った。(2)
 - ・「もしもしカメよ、カメさんよ」の歌は、『うさぎとカメ』の話が歌になっているのだと、初めて気づいた。(1)
 - ・あまりピンと来なかった。(1)
-

昔話の唱歌を聴いた感想では、最も多い回答に「懐かしい感じがした」という記述がみられた。具体的には、「祖母の車の中で、童謡や昔話の唱歌を聴いていたことを思い出した」や、「心温かくなるような、ぬくもりを感じた。懐かしさと同時に、楽しさが湧きあがった」のように、昔話や昔話の唱歌の記憶が、人とのつながりのなかに存在していることが分かり、幼少期の特に人的環境によって、これらの文化が継承されていることが再確認できた。また、「親しみやすく、心地よかった」や「歌いやすいメロディで、覚えやすい」、「どの歌も、同じようなメロディやリズムだった」など、唱歌・童謡に特徴的である、付点リズムによる曲調に気づきを示す記述や、「心地よい」、「歌いやすい」、と表現されたように、子どもにとって歌いやすい音域で、音程の高低の起伏が少なく、誰にでも簡単に口ずさむことができるメロディ構成と、シンコペーションなどの複雑なリズムを含まない簡易で一定のリズムに、肯定的な記述がみられた。また、「子どもの頃は、桃太郎や花咲爺は、すごいことをした人の物語だと思っていたが、今は、人に良いことをすると、良いことがあるという話だと分かった」など、昔話や昔話の唱歌がもつ、道徳的な内容に触れる記述もみられた。文部省唱歌の作曲に際しては、「小学唱歌教科書編纂日誌」によると、「楽曲は国民教育的に作るを要す」と定められ、「第一学年は平易な音程とリズムで、二拍子か四拍子、調子はト調、ヘ調、二調」⁹⁾ などのように制限があったようだ。また、「今の歌とは異なる雰囲気、日本独特な感じがした」や「曲調などから、なぜか懐かしく感じる。この気持ちを今の子ども、これからの子どもの知ってもらいたい」などのように、ヨナ抜き音階－例えば、『桃太郎』の「ひとつ わたしに くださいな」や、『うさぎとかめ』の「どうして そんなに のろいのか」のメロディにみられるように、音階の第4音と第7音を除く、日本固有の5音音階－について、これらを理解しているかどうかは定かではないが、直感的にこれらを耳にして「日本的」と感じる感覚を得ていることをうかがわせる記述があり、我が国の音楽文化を享受した姿と見ることができた。

3. 教育・保育課程における伝統や文化

(1) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における伝統や文化の取扱いについて

本稿ではこれまで、昔話と昔話の唱歌が、日本の伝統や文化を幼少期の子どもに継承するために有効な手段になり得ることについて述べてきた。そこで、教育・保育過程における保育内容として、指針等に示されるねらい及び内容（5領域）と、伝統や文化との関連について見ていくこととする。伝統や文化など具体的な表記が見られるのは、3歳以上児の保育に関するねらい及び内容の、ウ 環境（イ）内容の⑥である。そこには、「日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ」¹⁰⁾とあり、以後に続く（ウ）内容の取扱いの④には、「文化や伝統に親しむ際には、正月や節句など我が国の伝統的な行事、国歌、唱歌、わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること」¹¹⁾とあるように、保育内容における留意点が付け加えられている。つまり、幼少期から日本の伝統や文化に親しむことにより、多文化理解と国際的感覚が養われるのである。昔話や昔話の唱歌は、伝統芸能や芸術文化のように洗練されたものではないかもしれないが、日本人の日々の生活や価値観またその地域性など、芸術に昇華する前の、より民俗的要素の濃い部分が昔話や昔話の唱歌にはあり、我が国の伝統や文化の根幹を成すものと考えるのである。

(2) 小学校指導要領における伝統や文化について

平成29年告示の小学校指導要領では、改訂の基本方針の教育内容の主な改善事項として、言語能力の確実な育成、理数教育の充実などとともに、伝統や文化に関する教育の充実などが挙げられた。¹²⁾ 今回の改定では、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成（小学校指導要領第1章 第2の2）を行うために、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力など）の育成と、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことが規定された。中央教育審議会が取りまとめた答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号）に、現代的な諸課題に対して求められる資質・能力について具体的な内容が示されている。¹³⁾ そのうちの1つに「グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現代まで受け継がれてきた我が国固有の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力」とあり、子どもの姿や地域の実情を踏まえつつ、育んでいくことが重要としている。これらの資質・能力を育成するための教科等横断的な教育内容は、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編に例示され、¹⁴⁾ 伝統や文化に関する教育は、国語科、社会科、音楽科、図画工作、外国語活動・外国語科、家庭科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動のように、理数と生活、体育を除くすべての科目にわたり関連し、各教科等の特質を生かした伝統や文化の教育が重要視されていることが分かるのである。

(3) 道徳科との関連

また今回の改定では、これまでの「道徳の時間」を、『「特別な教科である道徳」（以下「道徳科」という。）』（小学校指導要領第1章 第1の2（2））と位置づけ、学校の教育活動全体を通じて行うものと定め、教育目標を「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した

人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」とした。その後、続く留意点には、「道徳教育を進めるに当たっては、（省略）豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る（省略）」とあり、伝統や文化と道徳教育との緊密性が示されたのである。特に昔話は、前述の通り勧善懲悪がその典型で、花咲爺に登場する意地悪爺も、かちかち山に登場する狸も、悪い行いをした者には災いが降りかかるという因果応報の教えを示す内容となっている。中山（2000）は、¹⁵⁾「昔話唱歌」誕生の要因について、「明治期の読本や修身教科書における昔話の採用は、知恵や教訓を教えるのが一つの狙いであり、それに伴い昔話の唱歌が作曲された」と述べている。伝統や文化の教育と同様に、今回の改定では、道徳科の教育においても、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする」（前出第1章 第2の2の（2））としている。教科を横断して教育内容を取り扱う考え方は、明治期において、昔話という題材が、国語、道徳、唱歌（音楽）など複数の教科に横断して取り扱われていたように、今回の改定でも、教科目間の連携による教育を重視していることから、その考え方は普遍的なものであることが分かる。「道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育」（前出第1章 第1の2（2））とあるように、昔話の読み聞かせを聞き、昔話の唱歌を歌うなど、言葉や音楽による表現に触れることによって感性や想像力が磨かれ、人格形成となることが分かるのである。

4. 昔話と昔話の唱歌を題材とした保育実践

唱歌・童謡を歌い継ぐ取り組みとして、2020年度には保育現場において、昔話と昔話の唱歌を題材とした保育実践を行った。（図6）実施したのは、長野県上田市にある認定こども園M保育園で、筆者が外部講師として、音楽指導を行う保育園である。当年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、保育所への登園自粛や移動制限などがあり、実施できたのは、6月の2回である。対象年齢は4歳児（年中クラス）と5歳児（年長クラス）の1クラスずつである。まず初回は、物語の短さと歌の簡潔さから『金太郎』を題材とし、次に『桃太郎』とした。絵本は、中村美佐子文／大日方明、川島赤陽画による『金太郎』（ひかりのくに株式会社）と、豊田次雄文／山本忠敬、岩本康之亮画による『桃太郎』（ひかりのくに株式会社）を使用し、唱歌は、石原和二郎作詞／田村虎蔵作曲による『金太郎』と、文部省唱歌／岡野貞一作曲による『桃太郎』を教材とした。活動のテーマは「昔話『金太郎』（または『桃太郎』）の世界を身体全体で感じてみよう」とし、活動の導入に絵本の読み聞かせを行い、展開部では該当する唱歌を歌い、唱歌に合わせてリズムあそびを行った。活動は、絵本、歌唱、リズムあそびから構成されるが、題材はすべて『金太郎』（または『桃太郎』）のように、同一のものを用了。小学校指導要領に示されたように、教科等横断的な



図6 保育実践の様子

取り組みとなるよう、領域「言葉」「環境」「表現」の要素を含む保育内容を目指した。絵本の読み聞かせでは、領域「言葉」のねらい③や領域「環境」の内容⑥にあるとおり、『言葉に対する感覚を豊かにし、我が国の文化や伝統に親しむ』¹⁶⁾ ために、数ある絵本の中から、ひかりのくに日本昔話えほん全集を教材とした。昔ながらの挿絵と文章表現が、現代の子どもが日本の文化に触れる機会になると考えたためである。続く歌の活動では、子どもが自身のなかで、物語の内容が再構築できるよう、あえて遅いテンポで歌うこととした。その後、『金太郎』の歌に合わせて、4拍ずつ身体の一部を叩くリズムあそび（ボディ・クラップ）を行った。活動の中で、頭をポンポンと叩く動作をしていた際に、頭を叩く代わりに、両手の人差し指を1本ずつ立て、鬼の角に見立てて遊ぶ園児の姿があった。それを見た周囲の園児らが真似をして、鬼に扮したままリズムあそびを行うような、遊びが展開していく場面が見られた。園児からは、『鬼も一緒に遊びたかったんだね』などのつぶやきが聞かれ、活動後も、物語の世界が広がっていくような様子があり、活動の連続性を見ることができた。

その後、保育者らに、昔話を題材とした保育内容について意識調査を実施した。調査方法は、前述した認知度調査と同様に、無記名による調査紙で、研究の主旨を調査紙に明記し、同意を得られた保育者25名より回答を得ることができた。（回答率100%）昔話を通して育みたい内容について、図7に示した。日本の文化、道徳心、想像力、言葉、人間関係、集中力の順に、半数以上の回答があったのは、言葉、日本の文化、道徳心の3つであった。特に、日本の文化と道徳心は、保育者の8割程度が、昔話を通して育みたい内容として挙げており、この結果からも、昔話が伝統や文化、道徳心を育むための教材として有益であることが確認できた。

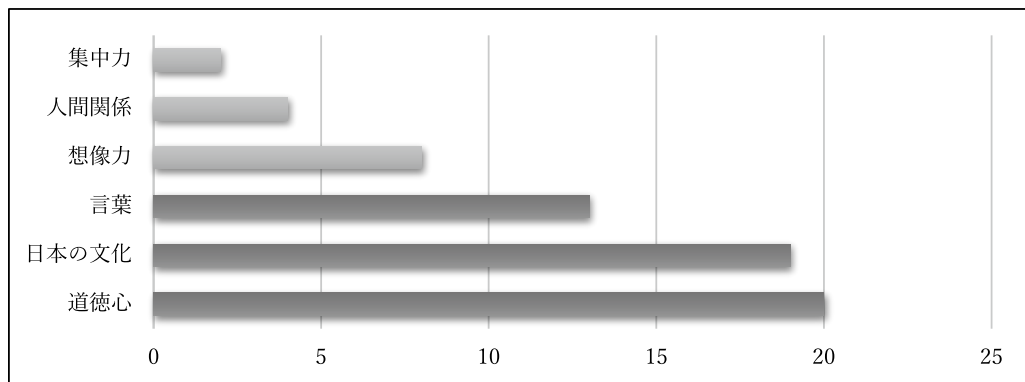


図7 昔話を通して育みたい内容

また、昔話の唱歌を歌うことの利点を問い、その結果を表3に示した。自由記述による回答を求めたところ、「読み聞かせと組み合わせることにより、より一層記憶に残る」や、「音楽に合わせて歌うことで覚えやすい」などの回答があり、学生への認知度調査で「懐かしい」という回答が多くあったとおり、幼少期のこれらの経験が記憶となっており、時間を経て再びそれらに触れた時に「懐かしい」という心情を生んでいることが分かった。また、「聴かせた子どもの、次の世代に歌い継がれていく」という回答のように、幼少期にこれらの絵本や唱歌に触れることが、文化的な土壌を養い、次の世代へ継承することにつながるということが分かった。

表3 昔話の唱歌を歌うことの利点について

-
- ・歌を歌いながら、頭の中でその場面を描いているので、想像力を養うのに良い。
 - ・歌うことで言葉を覚え、物語を深める事ができ、愛着がわく。
 - ・読み聞かせと組み合わせることにより、より一層記憶に残る。
 - ・語り継がれてきたものを後世に伝える事ができる。家庭では触れる機会が少ないため、園で行う意味は大きい。
 - ・聴かせた子どもの、次の世代に歌い継がれていく。
 - ・日本の文化を分かりやすく伝える事ができる。
 - ・音楽に合わせて歌うことで、覚えやすい。また、昔の言葉に触れる事ができる。
-

おわりに

本研究は、唱歌・童謡を歌い継ぐ取り組みを通して、これらを歌い継ぐ意味について考えてきた。本稿では昔話と昔話の唱歌に焦点を当て、昔話と昔話の唱歌の内容やこれらの認知度調査、領域の内容や小学校指導要領の改訂内容から検討を行い、保育実践を通して考察を行った。その結果、領域「環境」の考え方や、小学校指導要領にみられる伝統や文化に関する教育、道德教育の観点からも、唱歌・童謡を伝い継ぐことの意義は大きく、そのための方法として、昔話や昔話の唱歌を用いることが有用であることが明らかになった。伝統や文化に関する教育も道德教育も、その目指すところは、現代的な諸課題に対して求められる資質・能力の養成である。小澤（2009）の云うように、昔話を単に教訓や戒めとしてとらえるのではなく、その価値観の多様性を認めること¹⁷⁾、こそが、私たちに求められる資質・能力なのである。そのため教材や手段として、昔話や昔話の唱歌は、個人の得手不得手に左右されることがなく、私たち日本人にとって幼少のころから馴染みがあり、故に有用なものである。ただ残念なことに、これらの認知度は、若い世代ほど低く、小学校の音楽科共通教材にある唱歌でさえも、記憶に留まっていないことにより、歌によっては「知らない」とする学生もいる¹⁸⁾。これからも、我が国固有の伝統文化である唱歌・童謡を歌い継ぐための意義とそのための方法について、研究を継続していきたいと考えている。

参考・引用文献

- 1) 文部科学省（2018）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編 東洋館出版社
- 2) 柳田國男（1976）口承文芸史考 講談社 pp.93-96.
- 3) 松村明監修（1995）大辞泉 小学館 p.2569
- 4) 前掲3）p.2026
- 5) 森光義昭、関聡（2015）道德性を育む日本昔話の教材化『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』第38号 pp.10-11.
- 6) 金田一春彦、安西愛子編（1977）日本の唱歌（上）講談社 pp.56-57.
- 7) 金田一春彦（1995）童謡・唱歌の世界 教育出版 p.33
- 8) 上笙一郎編（2005）日本童謡事典 東京堂出版 p.55
- 9) 読売新聞文化部（2013）唱歌・童謡ものがたり 岩波書店 pp.324-325.
- 10) 厚生労働省編（2018）保育所保育指針解説 フレーベル館

- 11) 前掲10)
- 12) 文部科学省 (2018) 小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 総則編 東洋館出版社
- 13) 文部科学省 中央教育審議会 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申) (中教審第197号)
- 14) 前掲12) pp.204-207.
- 15) 中山エイ子 (2000) 「昔話唱歌」誕生の要因」『金沢工業大学日本学研究所日本学研究』 3 巻 p.201、p.210
- 16) 前掲10)
- 17) 小澤俊夫 (2009) 改訂昔話とは何か 小澤昔ばなし研究所 pp.180-181.
- 18) 平澤節子 童謡・唱歌を歌い継ぐ音楽教育のあり方について－幼児期から高等教育までの展望－ 上田女子短期大学児童文化研究所「所報」第40号 p.66-67.

謝 辞

本研究は、名古屋女子大学 教育・基盤研究助成費 (番号3011) による助成を受けたものである。また、調査に協力いただいた、社会福祉法人極楽寺愛育会認定こども園みのり保育園の先生方、学生の皆さんに感謝申し上げます。

